

イラクの子どもを救う会

ニュース

発行:イラクの子どもを救う会 発行人:西谷文和
 〒565-0824 吹田市山田西2-19-14
 TEL 06(4864)1828 FAX 06(6875)8980
 E-mail:nishinishi@r3.dion.ne.jp URL:http://www.nowiraq.com/

No.30
January 2012

2月上旬、 アフガンに出発します

アフガニスタンは砂漠の国で、何となく暑い国だと思っている人が多い。ウサマビンラディンが隠れていたとされる洞窟の様子や、砂漠風の荒涼とした大地を行進する米軍の映像などがお茶の間に流れていたもので、「灼熱地獄の恐ろしい国」というイメージが出来上がっているのかもしれない。

実際のアフガニスタンは高い山に囲まれた内陸国なので、夏はそれなりに暑いが冬の寒さは半端ではない。首都カブールの大地は凍てつき、避難民キャンプ



雪にすっぽりと覆われたチャライカンパールのキャンプ

プは雪にすっぽりと覆われる。私は来月初旬からカブールに入るが、おそらく夜はマイナス10℃くらいまで下がる。カブール郊外の避難民キャンプに



あまりの寒さで震えながら泣き出す子ども

は、地元アフガン人が運営するNGOがあるにはあるが、その支援はごくわずか。国連も赤字も入っていない。(治安上の問題か?)

避難民キャンプでは食料と毛布を配り、その後インディラガンジー子ども病院を訪問する。この病院では、大やけどをする子どもが後を絶たず、貧弱な医療設備と、薬

の不足から、多くの子どもが命を落としている。この病院にもほとんど国際的な支援が行き渡らないので、やけどの治療薬などを支援したい。

劣化ウラン弾によると思われる白血病などの子どもも多数入院しているが、抗がん剤は高価なため、やけど治療薬に集中しようと考えている。

オバマ大統領は、ようやくアフガンからの撤退を開始したが、



キャンプに毛布を配りました

一方で無人空爆機によるアフガン・パキスタン国境地帯の空爆は継続している。そんな混沌とした状況の中、タリバンなどによる自爆攻撃をはじめとした戦闘もあり、被害者はいつこうに減少する気配を見せていない。

エジプトやリビアは、アラブの春を経験し、多数の犠牲者を出しつつも、今後安定した平和国家に向かうと思う。アフガンに平和がやってくるのはいつになるだろうか?

この新聞がみなさんのお手元に届く頃、私は出発準備をしていると思う。小額で結構ですので、募金をお願いする次第です。

アフガンでの取材の様子は、いつものようにブログ <http://www.nowiraq.com/blog/> で更新していきます。

(写真は昨年2月のカブール取材から)

被災者の生活は「収束」していない

昨年11月、福島県に入った。故郷を奪われ、家を流され、家族を失った人々が、狭い仮設住宅でひっそりと暮らしている。東電が原発から20キロ圏内の人々に支払っていた月10万円の「生活補償金」も、9月から一方的に5万円に切り下げられた。家と仕事を失った人々が、「電気代がかかからず」と暖房器具にスイッチを入れず、震えながら凍える夜を過ごしている。悲惨な原発事故を引き起こした時点で政府と東電はすでに「犯罪者」であると思うが、このまま被災者を放置することで、政府と東電は罪を重ねている。「不作為」、あえて行政が手を打たないことで、被害を小さく見せて、補償額を値切ろうとしているように感じる。このまま被災者は棄てられていくのだろうか？

府県。どこへ行くのも車がないと極めて不便だ。中通りの福島市から太平洋に面する相馬市までは阿武隈山脈を乗り越えて、車を飛ばすこと1時間半。相馬市新沼の食料品店ナカジマストアへ。中島孝店長が私を案内してくれる。店は高台にあったので無事だった。坂を降りると、海まで平坦な道が続く。国道6号線を越えるとそこには「何もない平原」が広がっていた。津波でほとんどの建物が

流されたため、空が広く、高い海岸に不気味な煙突がそびえ立っている。「あれは何ですか？」

「あれはね、相馬共同火力発電所。東北電力と東電が共同出資して営業してたの。地震後は動いてないけどね」

「もしあれが原発だったら…」

「ぞーっとするね」

火力発電の煙突をバックに、コンクリートの基礎部分だけが残っている家、壁がはがれ落ち家具が散乱している家、家屋が流され門柱だけが残っている家…

「ここは北原釜地区とあって、ほとんどが漁師の家だよ。相馬市だけで死亡者は457名、そのうち現在も行方不明者は、そうだね20名くらいは、まだ遺体が上がってこないね」

中村さんはそのうちの1つ、コンクリートの基礎だけになった家の前に佇んだ。

「ここはね、ウチの店でレジ係やってた高校生の家だったんだ。津波の



レジ係の高校生が流された。午後1時からバイトしていれば…。

「ここはね、ウチの店でレジ係やってた高校生の家だったんだ。津波の

直撃を受けて跡形もないでしょ。彼女と姉、おばあちゃんが流されてしまったよ」

「3人も…」

「気だてのいい、しっかりした子だね。料理専門学校への進学が決まっていたんだ」

「その子の遺体は？」

「発見された。うちの女房がね、その日に限って何で1時からバイトを入れたかったんだらうって悔やんでね」

北原釜地区から相馬漁港へは車で10分ほど。左手に太平洋を見ながら、いまだに所々亀裂が入っている道を行く。

相馬漁港はいわゆる底モノ、カレイやヒラメなど高級魚が水揚げされていた。多くは東京の築地市場に活きたままトラックで運ばれ、料亭などにならんだ。そんな活魚を取引していたセリ場がある。セリ人待合室、買参



放射能さえなければ再開できているはず



屋上サイレンの柱にしがみついて助かった

人控え室と書かれた看板。地震と津波がなければ、今頃、威勢のいいかけ声が飛び交っているのだろう。放射能の危険があり、漁は再開されておらず、建物は復旧のメドさえ立っていない。漁協のビル屋上に、セリ開始を知らせる大型サイレンが置かれている。サイレンは4本の柱で備え付けられている。「あの日、最後まで漁協に残った職員たちが屋上に避難したのよ。でも津波はビルを乗り越えてきた。職員たちはあの柱にしがみついて命から助かった。寒かったし、雪も降ったでしょ。流されなかったけど、よく凍死しなかったな〜って」。当時の様子を聞きながら、何もかも流された漁港を撮影。岸壁で釣りをしている人がいる。釣り竿がしなっている。大物がヒットしたようだ。

釣り人と魚の格闘、キリキリとリールを巻き上げ、やがて魚が姿を現した。「スズキかな？いやサケだべ」。体長80センチほどの立派なメスのサケだった。「食べるの？」中島さんが釣り人に尋ねる。「うん、食べるよ。この前測ったんだ。(放射能は)出てなかったから」

福島では自衛のため、数万円もする放射能測定器を自前で買っている人が多い。本来なら東電が支給すべきものだが、政府も東電も動かないので、しびれを切らした人々が自主測定を始めている。

「いいサケじゃな」。釣りを見物していたおじさんがつぶやく。この素晴らしい海の幸を安心して食べることができるのか。おそらくその答えは今後何十年も「分からないまま」にされる。低線量の被曝は数年後に障害が出る場合が多い。

翌日、福島市の笹谷仮設住宅へ。この仮設住宅は、「ふくしま北公園」の一部を利用して建設されている。住民の全てが双葉郡波江町の出身。A1、B1など、同じ型の住宅に番号が振ってある。その中の1つE2の近藤昭子さん(仮名)宅を訪問。

「浪江町の川添に住んでいました。津波は大丈夫だったのですが、原発事故で避難せざるをえませんでした。3月12日の朝、パトカーがやってきて『早く避難しなさい』と叫んでいました。2〜3日で帰れると思っていたので、子どもを抱えて着の身着のまま避難。結局そのまま帰れなくなってこの状況です」

「3人です。子どものことを考えると、もう浪江町には戻れないです。10月下旬に甲状腺がんの検査もやりました。結果はまだ。今は元気にしていますが、半年後、数年後が心配です。もし何かの異常が出てきたら、補償してもらえるのでしょうか」

「3年前、2008年に思い切つて建てました。半端じゃないローンを払ってま

す。でも家には帰れないでしょう、どうしてくれるんだ、つて。せめて家のローンはチャラにしてもらわないかと。この狭い仮設では声が響くので「騒ぐな!」「泣くな!」の連発ですよ(笑い)。学校も転校を繰り返したので、子どもはしんどか



せめて家のローンはチャラにしてもらわないと

「がんばろう福島」「負けないうべ福島」。こんな看板が目立つ福島市の街。威勢のいいかけ声で人々を励まそうとする行政。でもこの標語には心がこもっていない。夏は暑いし、冬は寒いし…」

このルポをまとめた映像をプレゼント
この取材の様を、DVDにまとめました。(仮称)「福島〜棄てられる人々」です。このDVDを希望される方は、ファックスかメールでお知らせください。



笹谷仮設住宅。180戸全てが浪江町からの被災者だ

「アラブの春」のその後を検証する

エジプトとリビア、そして大阪の経験から

昨年5月にエジプト経由でリビアに入った。当時のリビアはまだカダフィ軍が首都トリポリを押さえていて、NATO軍がリビア上空を飛行禁止区域にし

ていた。よってリビア入りを試みようとするれば、エジプトから約1500キロを車で突っ走らなければならない。エジプトの首都カイロは人口

2200万人の巨大都市で、メキシコシティに次いで世界で2番目の人口過密都市である。なので、カイロではどこへ行くにも大渋滞。少々の距離ならバスやタクシーを使わず歩いた方が早い。そんなカイロの中心、タハリール広場が「エジプト革命」の舞台だった。



「エジプト革命」の舞台となった、タハリール広場（カイロ）

2月11日、このタハリール広場に集まった群衆は歓喜に包まれていた。30年以上続いた独裁者、ムバラク前大統領が倒された記念すべき日になった。

あれから3ヶ月後、カイロでは革命後の新たな問題が浮かび上がっていた。それは「少数者の弾圧」。いうまでもなくエジプトはイスラム圏、アラブを代表する国であるが、全ての人々がイスラム教徒ではない。ごく少数ながらキリスト教徒が生活している。エジプトでは「コプト教徒」と呼ばれ、このコプト教は原始キリスト教といふべき存在だ。エジプトはイスラエル、つまりイエスが処刑されたエルサレムにも近い。というか、こ

の辺りがイスラム教、ユダヤ教、キリスト教の起源といえる土地なのだ。 ナイル川の沿岸部に、その地区はあった。「コプト教徒居住区」。ナイルにかかる橋と橋の間をエジプト軍が戦車で遮断、銃を持ったエジプト警察がらみを利かしている。傍らには焼け跡が生々しく残るビル。暴徒と化したイスラム教徒が放火したのだ。

絶対的多数派のイスラム教徒が、圧倒的に少数のコプト教徒を虐殺し始めたのだ。独裁者ムバラクが倒されたのは良かったのだが、その後、カイロの一部地域で治安が悪化した。一部のイスラム急進派たちは、コプト教徒に対して、ムスリムに改宗するよう迫った。そんな中、あるコプト教徒の女性が、改宗に応じ、ムスリムになると約束した。喜んだイスラム急進派たちは、彼女をテレビに登場させ、



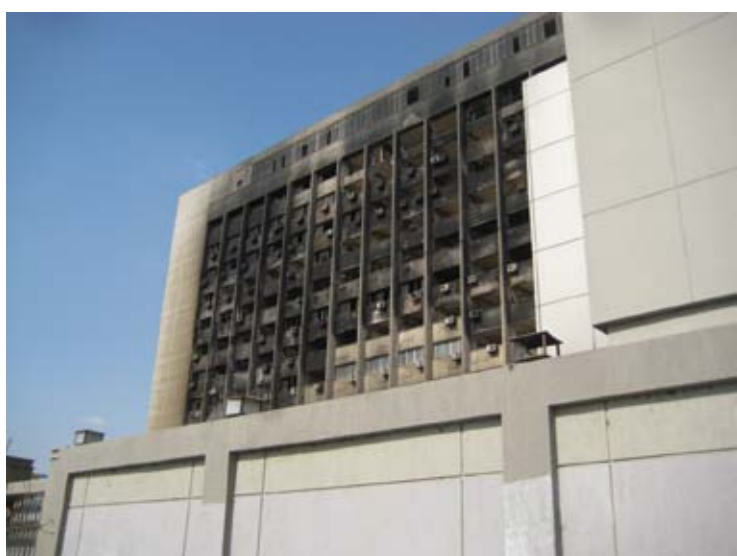
虐殺に抗議するコプト教の人々（カイロ）

「私は本日よりムスリムになります」と宣言させようとした。 オンエア当日、テレビの前で、彼女は泣きながら、「やっぱり改宗することはできない。私はコプト教徒である」と訴えた。

オンエア後、イスラム急進派たちは激怒。彼女の居住区を群衆が襲って数名のコプト教徒を虐殺、ビルに火が放たれた。 軍隊が発動し、今やこの地区の住民は軍に守られながら「監獄のような」地区内で、抗議行動をしていたのだ。

独裁者が民衆によって倒されると、群衆の歓喜の中で自由や民主主義が守られる社会が「自動的に」実現する、と考えがちだ。でも実際には「革命後の方が難しい」のである。それまで封印されていた様々な勢力が、勝手に自分の利害で動き始めると、収拾がつかなくなる。

その意味では「リビアの今後」も心配だ。何しろカダフィーの独裁は42年間も続いた。その間、人々は一度も選挙というものを行ったことがない。国会もなければ政党もない。そんな中で、石油を巡る利権が渦巻き、部族は分かれ、武器が氾濫している。よほどうまく石油収入を平等に分配する制度を作っていないと、内戦になる可能性は



群衆が火を放ったムバラク政権の建物（カイロ）

革命の熱狂から覚めた時に、いかに冷静に国づくりをリスタートできるか。本当はこちらの方が難しいのだが、メデアはその地道な再建の道をあまり報道せず、自爆テロが起こつた、別の国に革命が飛び火したなど、派手な方に報道が集

十分にあるのだ。 同じことはイラクでも起こった。サダムフセインがアメリカの侵略によって倒され、権力の空白ができた。長年の戦争でバグダッドには武器が氾濫していたし、スンニ派、シーア派、クルド民族が混住していた。多くの良識派が「俺たちはスンニでもシーアでもクルドでもない。イラク人だ」と統一を訴えていたが、彼ら良識派はシーア、スンニ、クルドの過激派から命を狙われ、やがてイラクを追われて内戦が始まり、今やバグダッドは、チグリス川から西側がス

ンニ、東側がシーア、といったように分断されてしまった。 私は「アラブの民衆革命」を否定しているのではない。あの地鳴りのような群衆の叫びを、軍に射殺されてもさらに前へ進む勇気を、鳥肌を立てながら取材し、そのエネルギーに陶醉していた。独裁者は打倒されるべきだし、あのような「命がけのデモ」を日本の国会前でも実現したいと願っている。

しかし「革命よりも革命後の統治の方が難しい」のもまた真実。 革命の熱狂から覚めた時に、いかに冷静に国づくりをリスタートできるか。本当はこちらの方が難しいのだが、メデアはその地道な再建の道をあまり報道せず、自爆テロが起こつた、別の国に革命が飛び火したなど、派手な方に報道が集

中する。 これは、現在の「ハシズム」、橋下徹氏を代表とする維新の会に対する熱狂にも言えることだと思ふ。「とにかく今の社会システムを一度壊してくれ！」 「俺たち若者は非正規雇用、敵は身分の安定した公務員である」「学校教育が悪い。日の丸君が代を尊ばない日教組（全教など含む）を征伐せよ」。彼の派手な言論に民衆は拍手を送る。しかし彼が大阪府や市、教育現場を「派手に破壊した後」に残るものは…。

日本国民の怒りの矛先が向かうべきだったのは、「株式投資で年間何十億円もの所得を得ている人々」「内部留保を溜め込みながら、労働者のクビを切り捨ててきた大企業経営者」「そんな富裕層から献金をもらって当選してきた政治家たち」ではなかったか。 日本の株式所得に掛けられる税金はわずか10%だ。そして新富裕層は株や証券の投資で、巨額の富を築いている。 ではなぜそこから税金を取らないのか？ ちなみにフランスは株の所得に30%課税している。なぜ毎日の生活がギリギリの

人々が消費税を10%も取られようとしている時に、この株式所得への極めて低い課税率が問題にならないのか？ 本来なら、非正規雇用の労働者と公務員が連帯して、「富裕層からもっと税金を取れ」と言うべきなのに、なぜ「底辺同士で」争っているのか？ アラブの民衆は敵を間違えなかった。しかし日本は、大阪は敵を見誤っている。 さて今後はどうなるのか？ アラブの人々にも、私たちに必要なものは、社会を変えるという熱いエネルギーと、その後の民主化を緩やかに進めると言うクールさ、私たちはこの両方のスキルアップが必要なのだ。



リビアでは若者が義勇兵として前線へ送られた（ミスラタ）

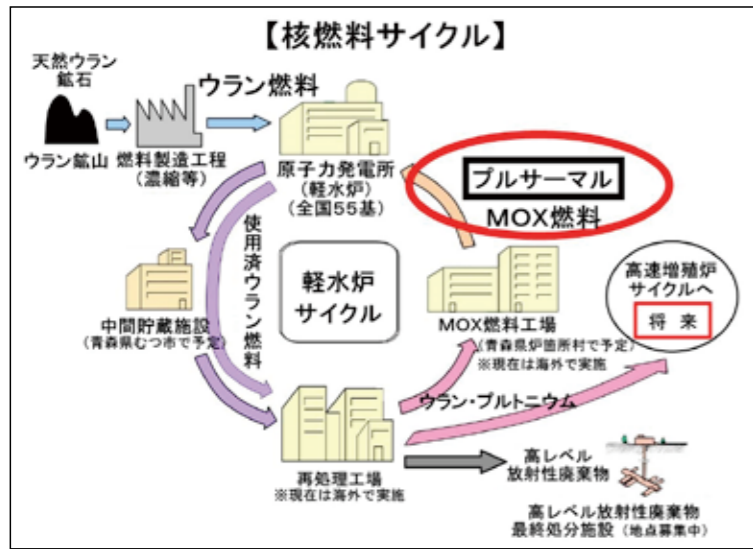
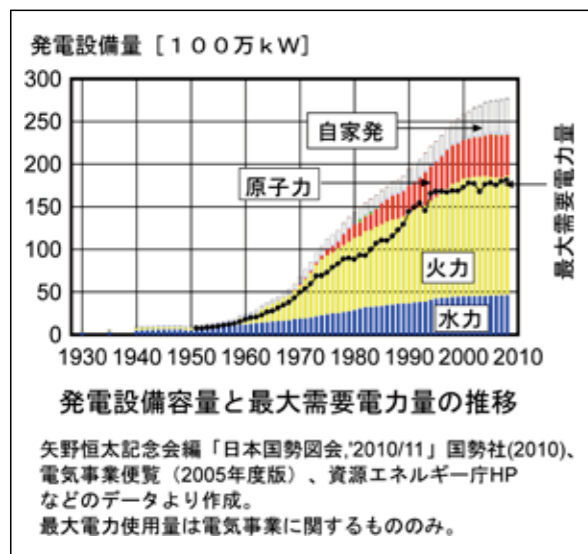
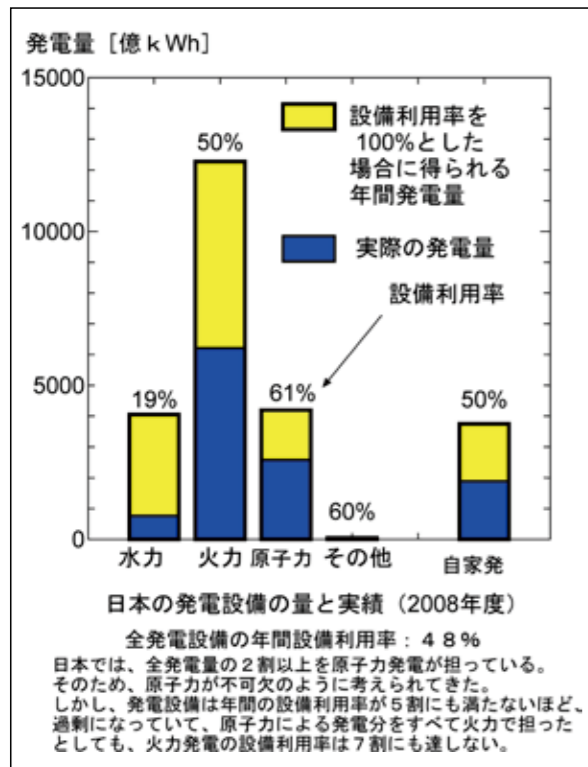


図3 日本にはまだ最終処分場がない



トル以内にならなくと、人は死ぬ。それほど高い放射能を出している危険物質である。図3

さて、ガラス固化体を六ヶ所村で何年冷やすか? 約50年と言われている。

六ヶ所村はあくまで再処理工場と中間貯蔵なので、50年間冷やしたガラス固化体は、いよいよ「最終処分場」へ送られることになる。しかし…

日本には、まだその受け入れを決めた自治体はない。北海道の幌延町などで「地層処分」の研究」をしているのだが、あく

まで研究なので、受け入れ先ではない。

モンゴルの砂漠の下に埋めたらどうか、という案も出たようだが、当然モンゴルに反対運動が巻き起こり、そもそも自国の核のゴミは自国で処分するのが世界の原理原則。よって、モンゴル案はダメになった。

仮に国内で最終処分場が決まったとする。地下300mから1kmの穴を掘って、そこに保存するのだが、さてこの高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)、完全に無害になるには何年かか

るか? 10万年から100万年と言われている。

ちなみに10万年前の地球にはネアンデルタール人がいた。その頃に仮に原発があったとして埋められた核のゴミが、今ようやく無害になるという計算だ。

人類の到達した現代科学を持つとしても「核のゴミ」死の灰の処分方法は、まだ未確立」である。そうすると解決策は? 今すぐ原発を止めて、核のゴミをこれ以上出さないこと、である。

日本政府と電力会社は、「もんじゅ」と「再処理工場」をメインにする「核燃料サイクル」に、いまだにこだわり続けている

るが、すでにこのサイクルは破綻している。ますますあきらめて、このために積み立ててきた2兆数千億に上る基金を、福島原発先進国といわれるフランスも米国も、とくに核燃料サイクルはあきらめている。

最後に「原発を止めたら停電する?」と関西電力は脅迫しているが、これも真つ赤なウソ。

図4は、08年度、発電施設と量の実績。原発を優先的に稼働させていたため、火力、水力、自家発電にはまだ余裕がある。仮に原発の電力を全て火力に移行させたとしても、まだ余裕があるのだ。

もちろん、火力発電もCO₂

を出さないので、長期的には風力、太陽光などの自然エネルギーを推進していくべきだ。しかしその移行期間は、天然ガスなどを使った火力発電などで十分まかなえる。まして今後の日本は少子高齢化、人口減少、省エネ家電の普及などで、電力需要は下がっていくだろう。

「この冬も節電をお願いします」などテレビや新聞を使って、危機感をおおっているのはなぜか? それは「原発を止めたら停電しますよ」という根拠のない脅迫なのだ。

CO₂を出さない、止めたら停電する、どちらも悪質なウソである。だまされないようにしよう。

原発のウソを暴く

シリーズ2 原発はCO₂を出さない?

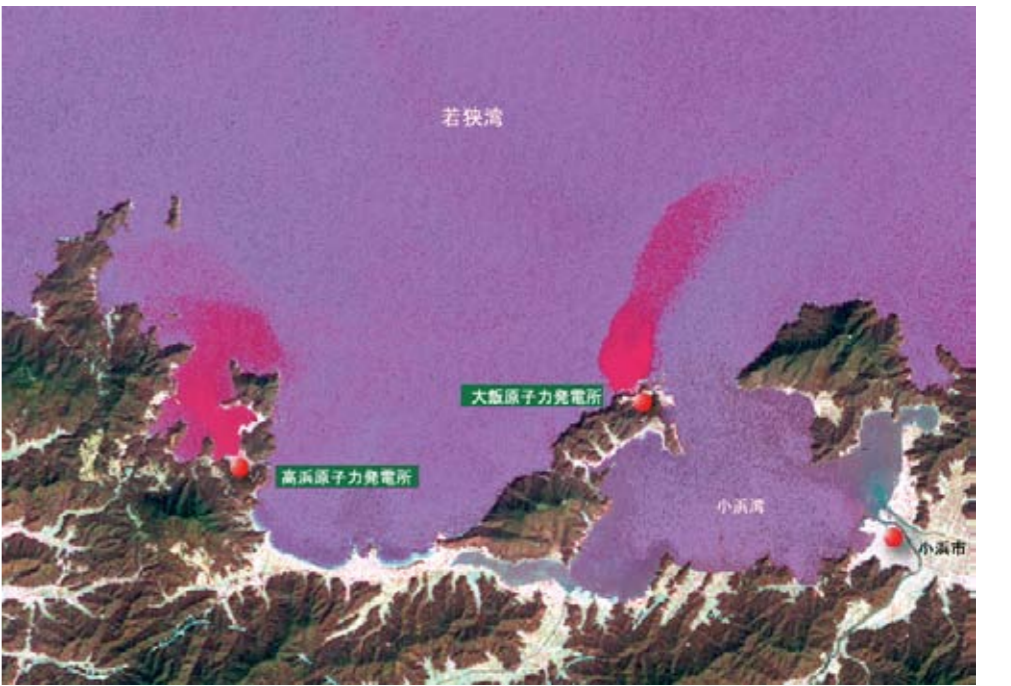


図1 原発からの温排水で温められる若狭湾

原発は地震が来たら壊れてしまふ、ということは分かったけど、すぐに止めたら停電すると言われてるし、火力発電に切り替えたら、CO₂が出てしまふ…。などと不安になっている方、だまされないようにしよう。

「原発は地球温暖化の切り札」でもなんでもなく、むしろ「地球を温め続ける厄介な発電所」

なのだ。以下、検証してみよう。

図1は福井県の原発銀座から出る温排水で、若狭湾が温められている様子。原発は火力発電より熱効率が悪く、出てくるエネルギーの3分の1しか電気にならない。残りの3分の2は熱になってしまふ。つまり原発を運転すれば原子炉が熱を持つ

で、炉を冷やし続けねばならない。今回のフクシマ事故で明らかになったように、原子炉を海水で冷やす必要があるのに、日本の全ての原発は海岸に建っている。

つまり原発は「海温め装置」なのだ。CO₂削減の目的は地球温暖化防止の目的は「発電時にはCO₂を出しません」とく

どいほどCMで宣伝していた原発だが、実態は海を温めることで海中にとけ込んだCO₂を蒸発させているし、そもそも「温暖化防止の切り札」といいたがら、海を温めている「温暖化を加速させている」発電所だ。燃料となるウランを採掘する際には、石油を燃やして重機

を動かすので、長期的には風力、太陽光などの自然エネルギーを推進していくべきだ。しかしその移行期間は、天然ガスなどを使った火力発電などで十分まかなえる。まして今後の日本は少子高齢化、人口減少、省エネ家電の普及などで、電力需要は下がっていくだろう。

「この冬も節電をお願いします」などテレビや新聞を使って、危機感をおおっているのはなぜか? それは「原発を止めたら停電しますよ」という根拠のない脅迫なのだ。

CO₂を出さない、止めたら停電する、どちらも悪質なウソである。だまされないようにしよう。

どうして最悪の選択なの?

「地球温暖化」と「その原因は二酸化炭素(CO₂)にある」といふのが、毎日繰り返されてきた。しかし、「温暖化」の原因はCO₂だけではありません。そのほかにも、温暖化の原因となるCO₂を削減する対策が、世界の国々で進められています。その中でも、最も効果的なのは「CO₂削減」です。しかし、そのためには、CO₂削減の目的は地球温暖化防止の目的は「発電時にはCO₂を出しません」とく、原発は死の灰もCO₂も出す。

原発は、死の灰もCO₂も出す。死の灰は、高レベル放射性廃棄物。CO₂は、地球温暖化の原因。原発は、死の灰もCO₂も出す。

「海温め装置」1秒間に70トンの温排水を約7℃上昇させ、放射能や化学物質を持って海に戻す。

図2 熱効率が悪く、エネルギーの3分の1しか電気にならない

を動かすので、CO₂が出てくるし、そのウランを濃縮する際にもCO₂が出る。それだけではない。原発を運転すると必ず出てくるのが使用済み核燃料棒。いわゆる核のゴミ。死の灰である。今回の事故で明らかになったように、この使用済み核燃料棒は、放置すれば崩壊熱を出し、溶融してしまふので、原子炉建て屋の中の「使用済み燃料プール」で冷却

「イラクと被曝」

シリーズ 10

路上で眠るといこと

私は昨年9月から、縁があって釜ヶ崎に関わらせてもらっている。休みの日には釜ヶ崎の子どもたちと一緒に遊んだり、平日は週に一度夜まわりをし、路上で寝ている方々に声をかけてまわったりおにぎりや毛布を配ったりしている。私がボランティアをさせてもらっている「こどもの里」は毎年1～3月に、子ども夜まわりをしている。夜まわり前の学習会では、釜ヶ崎の歴史を題材にした、面白くて悲しい1人芝居を目の前で見た。その芝居の中には、大阪の日雇い労働者の方々が、高給を手にするために原発建設にも関わり、体を壊していったという事実も織り込まれていた。子どもたちの中にはこの社会の仕組みに対するたくさんの「ナンデ？」が生まれ、その気持ちのまま夜まわりが始まった。寒い冬の夜、子どもたちが握った無骨なおにぎりが、おっちゃんたちをたちまち笑顔にしている。私が週に一度している大人だけの夜まわりと比べると、おっちゃんたちが声かけに応じてくれる確率は格段に上がる。人を人としてとらえ、人が人として繋がる。子どもたちの素直で純朴な使命感は、たくさんの温もりを生んでいる。

一晩で私たちが出会った路上生活者の方々は241名。

数年前から格段に減ったとはいえ、まだまだ襲撃の不安や寒さの中で眠る方々はこんなにもたくさんいる。日雇い労働者としてバブル経済を支えた方々はすでに60歳から70歳を超えている。目の前にいる人の命を大切にできずにいる現状。自分の住んでいる大阪で、こんなに理不尽な事を許しているのであれば、世界の大きな仕組みの中では、もっと多くの命を危険にさらしてしまっているのではないかと。ふと、西谷さんがアフガニスタンに行かれた時の難民キャンプの子どもたちの映像が浮かんだ。素足で極寒の地を駆け、直火のストーブで暖をとる、重度のやけどを負ってしまう子どもたち。彼らは今、どうしているだろうと想いを馳せる。ゆがんでしまった豊かさの仕組みに、夜まわりで歩くたびに小さな怒りの種がたまる。大阪で、アフガンで、あらゆる紛争や災害、社会的な仕組みから路上で生活を余儀なくされている命が、1人でも多くこの冬を乗り切ってほしいと切に思う。私が行けないところまで行き、さらに多くの命をつなごうとアフガンに行かれる西谷さんの御無事を祈りながら。私は私の怒りの種が、いつか大きな幸せの実を結ぶように、釜ヶ崎の夜を歩こうと思う。近藤麻衣(大阪YMCA)

『イラクの子どもを救う会』事務局便り⑫



新しい年になりました。ニュースレターを読んで下さっている皆様、今年もどうぞよろしくお祈りします。昨年新DVD「原発」が発売されてから、西谷さんは学校への講演がとて増え、また学校関係(図書館・教材)でのご購入も増えています。テレビや新聞では流れないような内容が収められており、私の小学校でのPTA向け講演も好評でしたので、ご興味あれば是非ご覧ください。また、ご覧いただいた皆様の感想をぜひ、office@nowiraq.comまでお聞かせください。これからも、今までに体験してこなかったことが世界各地で起こると思います。そのような出来事を通じてどのよう在るのが幸せなのかを教えてください。その都度良い選択をしていきたいですね。(釘嶋)



編集後記

アフガンの次に訪問を考えている国は、シリア、イラク、イラン、ソマリアなどです。米国の大統領がオバマになるか共和党の候補になるかで、状況は変化していくでしょうが、間違いなく上記の国々は不安定な状態が続く、民衆はその犠牲になっていくでしょう。科学技術の発展で、宇宙戦争が本格化する時代に、カブールの庶民は、夜の電気にも不自由しています。12年は、少しでも格差が縮まる年になればいいな、と思っています。

アフガン 最新取材報告会

代表の西谷が、2月上旬からアフガニスタンに入ります。今回は難民キャンプの夜の様子や、ストリートチルドレンの現状、米軍撤退後のアフガンの治安状況などを取材予定としています。もちろん、みなさんからの募金で購入した毛布や食料、医薬品の配布状況なども報告されます。日本の支援金50億ドルが、なぜ貧しい人々に届かないのか？タリバンはカブールを制覇するのか？カルザイ政権はどこまで信頼されているのか？アフガンに平和が戻る展望は見えてきたのか？そうしたことを、最新映像を交えて報告します。

日時 2012年 **2月29日(水)**
午後6時半より

場所 大阪市立いきいきエイジングセンター研修室

入場無料です。お気軽にご参加ください。

【お知らせ】

1. ニュースレター配布停止は 御手数ですが、当会までお知らせ下さい。尚、ニュースレターはメール便で発送しております。転居先まで追跡ができませんので、転居がきまりましたらお知らせしていただけると非常に嬉しいです。よろしくお祈りします。
2. DVD「ジャーハダ」「GOBAKU」の感想をお待ちしております。
〒565-0824 大阪府吹田市山田西2-19-14 FAX: 06(6875)8980
ご意見、感想などはこちらにお寄せください、お待ちしております。office@nowiraq.com

募金のあて先

- ① 三井住友銀行 吹田支店
普通 3712329
イラクの子どもを救う会 西谷文和
- ② 郵便振込 00970-5-222501
イラクの子どもを救う会